

AY 2027
Entrance Examination Guideline for the
Application Guide for the Doctoral Program of
Health Sciences and Nursing

2027 年度博士後期課程学生募集要項
入学試験案内
(健康科学・看護学専攻)

1. 入学試験の概要について
2. 出願手続
3. 受入予定指導教員一覧
4. 二次試験（口頭試問）について
5. 修士論文作成ガイドライン

東京大学大学院医学系研究科
Graduate School of Medicine
The University of Tokyo

令和9（2027）年度

東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻

博士課程 入学試験案内

本冊子は、「東京大学大学院医学系研究科 博士課程 学生募集要項」（以下、「募集要項」）の内容を補完するものですから、志願者は必ず「募集要項」を参照してください。本冊子には健康科学・看護学専攻のみに関係する事項についての情報が載っています。

1. 入学試験の概要について

(1) 一次試験は以下の①～④を総合的に評価する

- ① 研究計画書（事前提出）
- ② 修士論文（事前提出）
- ③ 小論文（事前提出）
- ④ 外国語審査（TOEFL または IELTS の成績証明書）

※本研究科において令和6(2024)年4月1日から令和9(2027)年3月31日の期間に修士又は専門職学位の学位を得た者、得る見込みの者については、一次試験を免除する

(2) 二次試験は一次試験の合格者に対して、口頭試問を行う

※2027年1月25日（月）にオンラインで口頭試問を実施する

また、試験に先立ち1月22日（金）に接続テストを行う予定である

2. 出願手続

(1) 出願期間を過ぎた場合については、理由の如何に関わらず一切受け付けることは出来ないため、出身学校等へ証明書等の発行依頼を早めに行う。万一、証明書の発行が間に合わない場合は、必ず事前に医学系研究科学務チーム大学院担当(E-mail: in.m@gs.mail.u-tokyo.ac.jp)へ連絡すること。

(2) 入学試験の試験時間については、出願後に送信される「受験者心得」により知らせる。

(3) 募集要項に定められた出願手続に従い出願すること。提出書類についての注意事項をよく確認すること。

(4) 入学者選抜の提出書類（研究計画書、修士論文、小論文、誓約書）の提出方法

- ・小論文と誓約書の様式は医学系研究科 HP よりダウンロードすること。

医学系研究科 HP <https://www.m.u-tokyo.ac.jp/daigakuin/apply/appguidemain.html>

- ・提出された書類は剽窃チェックを行う。そのため、文献を引用した場合には必ず出典を記載し、公表済みの自身の論文に関しても出典の記載をすること。

書類名	提出者	摘要	電子ファイルのタイトル・形式
① 研究計画書	全員	<ul style="list-style-type: none"> ・入学後の研究計画について、A4判片面2枚にまとめ、2枚とも左上に「研究計画書、氏名、ページ番号」を記載すること。 ・出典はページ数には含まない。 	<p>タイトル：【健康科学・看護学】①研究計画書（氏名）</p> <p>形式：Ms Word、テキストまたはPDF</p>
② 修士論文	令和9(2027)年3月に本研究科健康科学・看護学専攻修了見込の者以外	<ul style="list-style-type: none"> ・修士の学位論文としてまとめた研究内容またはこれに代わる研究内容を、別添「修士論文ガイドライン及び口述試験について」によりA4判片面8-10枚以内にまとめたものを提出すること。研究論文があれば併せて提出してもよい。 ・英語以外の外国語のものについては、日本語又は英語の訳文を添えること。 	<p>タイトル：【健康科学・看護学】②修士論文（氏名）</p> <p>形式：PDF</p>
③ 小論文	令和9(2027)年3月に本研究科修士課程または専門職学位課程を修了見込の者以外	<ul style="list-style-type: none"> ・所定様式を使うこと。 ・日本語で1,600字以内、または英語で700語以内。A4版1枚程度。 ・テーマ：「あなたが志願している研究分野の課題と将来像について、先行研究やあなた自身の経験を踏まえて、簡潔に述べてください。加えて、あなたはこの研究分野にどのように貢献していきたいのか、あなたが考えているあなた自身の将来像についても述べてください。」 ・出典はページ数には含まない 	<p>タイトル：【健康科学・看護学】③小論文（氏名）</p> <p>形式：Ms Word、テキストまたはPDF</p>
④ 誓約書	令和9(2027)年3月に本研究科修士課程または専門職学位課程を修了見込の者以外	<ul style="list-style-type: none"> ・所定様式に署名のうえ、願書と併せて郵送で提出すること。 	

(5) 健康科学・看護学専攻博士後期課程入試の外国語（英語）について

東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻の入試においては、「外国語（英語）」は実施せず、TOEFLまたはIETLSの成績を利用して外国語審査を行います。

本専攻の博士後期課程へ出願する方は、以下要領で、TOEFLまたはIELTSの成績証明書をご提出ください。成績証明書の提出は、以下1、2及び3のすべての手続きが必要です。1～3のうち、どれか一つでも手続きが完了していないと、成績証明書を受理することができませんので注意してください。

1. 試験の種類

TOEFL-iBT、TOEFL iBT® Home Edition、IELTS (Academic Module) のいずれかの成績証明書を受理します。（「IELTS (General Training Module)」は対象としません。）

2. 成績証明書の有効期限

いずれの成績証明書においても、2025年1月1日以降に受検したものに限定します。

3. 成績証明書スコア提出の流れ

TOEFLの場合

①TOEFL Official Score Reportを送付する。

TOEFL 申込時から受検前日までの間に、ETS 個人アカウントでページにログインし、本研究科に「Official Score Report」を送付手配する手続きをしてください。その際、下記のコード等を入力してください。なお、過去に受検した TOEFL-iBT スコア（有効期限内に限る）を利用する場合も同様です。

DI (Designated Institution) Code: 8426 University OF Tokyo Faculty MED
Division: Graduate Organization
Department: 42 - Medicine

・送付手続きが正しく完了し、試験自体にも問題がなければ、当研究科では受検日から約8日後にオンラインで公式スコアを確認することができます。ただし、試験時にネットワークや機器のトラブル等で再試験になったり、成績証明書スコアの開示が遅れることがあるため、十分な日程の余裕を持って受験をしてください。

・大学院入試出願前に送付手続きをすることができます。また、過去に上記コード等を利用して本研究科宛てに、有効期限内のスコアを送付手配手続済みの場合、再度送付する手続は不要です。

・成績証明書スコアの送付手続きは複数回おこなっても問題ありません。つぎの②で登録した Appointment Number と受検日の成績証明書スコアのみを受理します。

・成績証明書スコアの到着状況についてはお答えしません。

②Appointment Number と受検日を「WEB 出願システム」に登録する。

提出する成績証明書スコアの Appointment Number と受検日を、所定のスコア提出期限内までに「WEB出願システム」に登録してください。

③Test Taker Score Report を「WEB 出願システム」にアップロードする。

②で登録した Appointment Number と受検日の Test Taker Score Report (PDF) を、所定のスコア提出期限までに「WEB 出願システム」にアップロードしてください。Test Taker Score Report (PDF) は、受検受験日から約8日後以降、ETS アカウントからダウンロードが可能です。

※TOEFLを複数回受検した場合でも、アップロードするスコアは1部に限りません。

注意事項

以下の場合、外国語試験の成績は無効とみなして、外国語審査を受検しなかったものとして取り扱います。

(1) 「Official Score Report」の送付が本研究科で確認できなかった場合

(2) WEB 出願システムにアップロードされた「Test Taker Score Report」と ETS から送付された「Official Score Report」が一致していない場合

(3) 指定された期日（上記「2. 成績証明書の有効期限」参照）より前に受検した成績を提出した場合

(4) その他不正な方法で提出した場合

IELTSの場合

①Test Report Formを「WEB 出願システム」にアップロードする。

「Test Report Form」を、所定のスコア提出期限までに「WEB 出願システム」にアップロードしてください。

※IELTS を複数回受験した場合でも、アップロードするスコアは1部に限りません。

※スコアに関する詳細は以下の IELTS ホームページを参照してください。

<http://www.eiken.or.jp/ielts/>

②IELTS Test Report Formを送付する。

IELTS 事務局へ、①で提出したのと同じ受検時の「Test Report Form」の追加発行を申請し、下記の宛先に送付するよう請求してください。

〒113-0033 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学大学院医学系研究科学務チーム大学院担当

※出願以前に請求が済んでいれば、事務局から送付される Test Report Form の到着が 出願締め切り後になったとしても受理します。なお、IELTS を複数回受検したことにより「Test Report Form」が複数枚研究科に届いた際は、①でアップロードされたものと同じのスコアを採用します。

注意事項

- ・ One Skill Retake制度を利用したスコアは認めません。
- ・ 以下の場合、外国語試験の成績は無効とみなして、外国語審査を受検しなかったものとして取り扱います。
 - (1) IELTS 事務局から「Test Report Form」が届かなかった場合
 - (2) WEB 出願システムにアップロードされた「Test Report Form」とIELTS 事務局から送付された「Test Report Form」の内容が一致していない場合
 - (3) 指定された期日（上記「2. 成績証明書の有効期限」参照）より前に受検した成績を提出した場合
 - (4) その他不正な方法で提出した場合

4. 成績証明書の免除について

次の(1)または(2)に該当する場合、TOEFL または IELTS のスコア提出が免除される場合がある。スコア提出の免除を希望する者は、出願前に個別の審査を行うので、事前に本研究科事務部 (in.m@gs.mail.u-tokyo.ac.jp)に申し出たうえで、2026年11月9日(月)までに審査に必要な書類を提出すること。

(1) オーストラリア、カナダ、アイルランド、ニュージーランド、イギリス、アメリカのいずれかの大学を卒業（見込みも含む）した者

(2) 上記(1)以外の大学の卒業（見込みも含む）者で、大学全体が英語で授業を実施していることを示す大学発行の証明書を提出した者

※いずれも学士課程に限る。修士課程および博士課程には適用されない。

英語を母国語とする国の出身者であっても、上記の期限までに申し出がない場合は、一切免除を認めることはできないので注意すること。

3. 受入予定指導教員一覧

2026年3月現在

○専攻分野と指導教員

- (1) 志願者は、志望する専攻の教員（教授又は准教授）を指導教員とします。
- (2) 志願者は、出願書類を提出する前に必ず指導教員に連絡を取ってください。
- (3) 各専攻分野の指導教員並びに研究分野は下表のとおりです。本年度で退職予定の教員等は、指導できない場合があります。

専攻分野	指導教員		研究分野	所属講座(部門)
看護管理学	教授	池田 真理 (兼)	看護組織や職場のダイナミクスや個人の経験の 解明	予防看護学
看護体系・ 機能学	教授	池田 真理 (兼)	リアルワールドデータを用いた医療・看護の質 指標である提供体制・提供プロセス・アウトカ ムの評価、 医療政策が患者・医療者・社会に与える影響の 検証	予防看護学
高齢者在宅長期 ケア看護学	教授 准教授	山本 則子 野口 麻衣 子	高齢者在宅長期ケア(long-term care)看護全 般、 長期ケア・訪問看護の質保証、地域ケアシステ ム開発 ケアに関する市民参加型実装研究	臨床看護学
緩和ケア看護 学	教授 准教授	山本 則子 (兼) 野口 麻衣 子	高齢者の終末期(end-of-life)ケア全般、 看護実践からの知の開発	臨床看護学
地域看護学・ 公衆衛生看護 学	准教授	吉岡 京子	地域看護学・行政看護学全般、地域ケアシステ ム開発、施策化、保健師の暗黙知の解明、 発育性股関節形成不全のアセスメント・予防	予防看護学
行政看護学	准教授	吉岡 京子		予防看護学
家族看護学	教授	池田 真理	家族看護学・小児看護学全般。家族のアセスメ ントと家族看護学的アプローチの開発。家族形 成期のメンタルヘルス、家族のQOL、小児慢性疾 患の長期フォローアップと移行期支援、虐待予 防、ジェンダーと看護	予防看護学
精神看護学	准教授	宮本 有紀	精神科看護、社会復帰支援、リカバリー、共同 創造	臨床看護学
	教授	西 大 輔 (兼)	精神保健疫学、周産期メンタルヘルス、 トラウマティックストレス、レジリエンス	健康科学
老年看護学	教授	仲上 豪二 朗	看護理工学による高齢者重点看護技術開発、 産学連携によるデバイス・システム開発	臨床看護学
創傷看護学	教授	仲上 豪二 朗(兼)	難治性創傷発生メカニズム解明、AI を用いた創 傷発生・治癒予測、看護学とバイオロジーの融 合研究	臨床看護学
母性看護学・ 助産学	教授 准教授	春名 めぐ み 米澤 かお り	妊娠・産褥期と新生児の生活と健康、 生理学的根拠に基づく分娩時ケアや新生児ケア の改善、女性のライフサイクルにかかわる健康 課題、助産に関する制度	臨床看護学
ナーシング データサイエンス	特任教 授 特任准教 授	林田 賢史 友滝 愛	データサイエンス、データベース研究、リアル ワールドデータ、医療・看護情報学、医療管理 学・経済学、エビデンスに基づく政策形成 (Evidence-based Policy Making/Evidence-	(社会連携)

			informed Policy Making)、エビデンスに基づくヘルスケア (Evidence-based Healthcare)	
次世代創傷ケア開発学	特任准教授	麦田裕子	難治性創傷の治癒を促進する革新的次世代創傷ケアの開発研究、看護理工学、材料科学、分子生物学、バイオインフォマティクス、臨床工学の融合研究	(社会連携)
放射線健康科学			今回は募集いたしません	
医療倫理学	教授	中澤 栄輔	医療倫理学、臨床倫理、臨床倫理コンサルテーション、意思決定プロセス	健康科学
生物統計学	教授	松山 裕	生物統計学、医学研究の計画と医学データ解析、臨床試験の方法論	健康科学
疫学・予防保健学	教授	松山 裕 (兼)	疫学、疫学研究の計画と解析、理論疫学	健康科学
	准教授	篠崎 智大	生物統計学、疫学理論、因果推論、観察研究のデザインと解析	健康科学
保健社会行動学	教授	橋本 英樹	社会・経済・文化的要因と健康との関連に関する社会行動学的研究を広く含む。	健康科学
健康教育・社会学	准教授	鎌田 真光	身体活動を中心とした健康行動の疫学研究、個人・集団を対象とした行動変容介入・政策の開発と評価	健康科学
精神保健学	教授	西 大輔	精神保健疫学、周産期メンタルヘルス、トラウマティックストレス、レジリエンス	健康科学
精神保健政策学	連携准教授	山口 創生	地域精神保健サービスの評価、障害福祉・就労支援サービスの評価、複雑介入による実践評価	健康科学
社会予防疫学	教授	村上 健太郎	栄養疫学、行動栄養学、公衆栄養学	健康科学
栄養疫学・行動栄養学	特任教授	大久保 公美	ライフコース栄養疫学、プレコンセプション期の栄養、口腔機能と栄養、食事評価法の開発	(社会連携)
保健医療情報学	教授	脇 嘉代	行動変容理論に基づく、運動、食事、睡眠、ストレスを含む効果的な生活習慣への介入の設計、生成AIを活用したmHealthソリューションの開発と介入の実装、mHealthを活用した介入の有効性を検証する臨床試験の設計と実施	臨床情報工学 (社会医学)
医療コミュニケーション学	教授 准教授	木内 貴弘 奥原 剛	ヘルスコミュニケーション、メディアコミュニケーション	疫学保健学 (公共健康医学)

4. 二次試験（口頭試問）について

筆記による一次試験を通った者が二次試験に進み、口述試験を受ける。口述試験は、修士論文を8-10頁に集約したものの「修士論文ガイドライン及び口述試験について」を基に発表を行い、主査・副査・フロアーからの質問に答える形で行われる。発表には、博士課程入学後の「研究計画」を含める。

口頭試問の際のスライドの準備

- ・ 発表時間は修士論文の発表を1人15分間、研究計画5分以内とする
- ・ 発表にはPower Pointを用いることが出来る
- ・ 過度なアニメーションの設定は行なわない

発表の際の注意

- ・ 発表原稿、修士論文のみ手元に置いてもいい。それ以外のものは使用できない。

なお、令和9（2027）年3月に本研究科健康科学・看護学専攻修士課程、国際保健学専攻修士課程、医科学専攻修士課程、公共健康医学専攻を修了見込みの者の口述試験は、発表形式ではなく質疑応答のみとする。

このうち、国際保健学専攻修士課程、医科学専攻修士課程、公共健康医学専攻の修了見込み者は、それぞれの所属専攻の修士論文発表会（公共健康医学専攻の場合は課題研究発表会）に加えて、健康科学・看護学専攻の修士論文発表会にも参加が必要なので注意すること。修士論文発表会に関する詳細は出願後に該当者にのみ通知する。

修士論文作成ガイドライン（健康科学・看護学専攻）

I. 修士論文の評価方法・基準

修士論文の審査は、各教員（専攻内の講師以上全員、および、当該論文の審査に当たった助教）が、優・良・可・不可で評価している。

論文は以下の基準により審査される（各基準の重みは一律ではないが、評価者の観点としては含まれる）。

1. テーマの新規性・独創性・着眼性
2. 論理的（科学的）な思考能力
3. 方法（アプローチ）の妥当性
4. 結論のimplication・テーマの発展性
5. プレゼンテーション・質疑応答能力
6. 研究への貢献度
7. 論文の体裁

II. 修士論文の作成

修士論文は原則として原著性のある論文とする。すべての修士論文は関係教員と関係分野のすべてに配布される。このことを踏まえて、修士論文は、審査やその後の論文投稿の際にそれを容易とするように、学術論文として適切かつコンパクトに作成するものとする。ここに、そのためのガイドラインを定める。

このガイドラインは、あくまで明快で読みやすい良い論文を作成するためのものである。本ガイドラインで意を尽くせない部分は、論文作成者の工夫で補って、よりよい論文の作成を心掛けることが望まれる。論文のまとめ方も審査の評価に含まれる。

1. 使用する言語は、日本語ないし英語とする。研究の国際化の観点からは、英語での作成を考慮することが望まれる。ただし英語でも日本語でもそれを母語としない人が書いた場合は、その言語に慣れた人かnative speakerの校閲を受けることを原則とする。

2. 原則として、後日、当該領域の専門誌に投稿する。

3. 修士論文の体裁と作成要領は以下を原則とする。著しく逸脱した論文は審査しないこともある。なお、論文とは別に調査票の実物などを付ける場合については、後述する。

4. 論文の体裁と作成要領

1) ワードプロソフト等を用いて作成する。

2) 論文全体（図表などを含む）をA4紙8頁程度、長くとも10頁以内にまとめる。

3) 頁は1段組とし、上下左右の余白は2.0cm程度とする。図表は適切な位置に配置する。

4) 日本語の場合、フォントは明朝体で、英語の場合、CenturyやTimes New Romanなどで、10ポイント以上とする。ただし、論文題目（日本語英語併記）・学籍番号・著者名・指導教員名・入学年度・所属分野、および緒言、方法、結果、考察などの表題はゴシック（あるいはボールド）を用いる。

なお、内容から必要であって、かつ、論文が読みやすい範囲内であれば、文字の大きさを小さくしてもよい。

5) 段落の開始行は、日本語では文頭を1文字下げ2文字目から、英語では2文字下げ3文字目から記述する。

6) それぞれの論文においてページ番号1～8（最大10）を下部中央に記載する

7) 構成

論文は以下の(1)～(11)で構成されるものとする。(1)～(9)はこの順序で改頁せずに配置する。(3)～(9)は、緒言、方法、結果、考察、結論、謝辞、文献などまたはそれに準ずる表題を付ける。

表題はその前を1行空け、ゴシック（あるいはボールド）を用いて、段の中でセンタリングする。次の行から本文を記述する。方法や結果などで下位セクションが必要な場合は、下位セクションの表題は左寄せとする。

なお、必要であれば論文の構成を変更してもよい。

(1) 論文題目・学籍番号・著者名・指導教員名・所属分野・入学年度

論文題目、学籍番号・著者名を日本語と英語で記載し、日本語論文の場合は日本語を上、その英文を下につけ、英語論文の場合はその逆とする。その下に、指導教員名、入学年度および所属分野（東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻〇〇分野）、を日本語で記載する。論文題目と著者名、指導教官のそれぞれの間は1行空け、1段組で、ゴシック（あるいはボールド）を用い、頁内でセンタリングする。論文題目などを倍角とし、行間を変更したりしない。

(2) 要約およびKey words

a) 要約は1段組とする。所属分野から1行空けて記述する。開始行の文頭を下げず、文中の改行もしない。

b) 要約は、日本語論文では800字以内、英語論文では250語以内とする。

c) 要約には、何を目的に、どのような対象にどのような方法を用いて、どのような結果を得て、その意味はどうであるかを簡潔に記述し、論文全体のまとめとなるようにする。緒言の一部であったり、結論と同様なものであってはならない。目的・方法・結果・結論などに分けて記載してもよい。

d) 要約の次の行に、5語以内のKey wordsを、1段組で、Key words : に続けて、アルファベット順に英語で記載する。

(3) 緒言（はじめに）Introduction

従来の研究を概観し、これまでの課題を明らかにする。それらを踏まえて当該研究の必要性和研究目的あるいは仮説を述べる。

(4) 方法 Methods

- a) 対象、方法など適当な下位セクションに分け、簡潔に記述する。
- b) 対象（対照を含め）が人の場合には、年齢や性比を記述し、その他必要な人口統計学的情報（但しこれが研究結果になるような場合は、結果の項に記載する）を述べる。地域や組織あるいは動物などを対象としたものでも、対象について適切な情報を述べる。
- c) 方法の部分は、研究の再現性を可能とするように、研究方法の概要を述べる。研究で用いた未発表の尺度、機器、設備や薬品などは、その概要を記述する。
- d) 倫理的配慮について適切に記述する。

(5) 結果 Results

得られた結果を簡潔に記述する。この部分では図表も用いるが、文章では図表の要点を記述し、図表の内容を詳細に重複して述べることは避ける。表の内容を図でも重複して表現することはしない。

(6) 考察 Discussion

従来の知見などと対比して、得られた結果の意義（および限界）を討論し、今後の研究方向などを示唆する。緒言のセクションで述べられるべき、文献レビュー的な部分は不要である。あくまでも従来の知見と対比して、得られた結果の意義を十分に討論すること。考察を下位セクションに分けて行なう場合（長い考察の場合）には、考察としての統一性を保つように留意する。下位セクションごとのまとまりはよくても、全体としてのまとまりがなかったり、論旨が一貫しないものが往々にして見られるので注意する。

(7) 結論 Conclusion

得られた結果の重要な部分とその意義を簡潔に述べる。

(8) 謝辞 Acknowledgment(s)

最初に当該研究を部分的にせよサポートした研究費があれば記載する（例：本研究の一部は、JSPS科研費JP12345678の助成を受けた）。次いで、研究の一部あるいはすべてを学会などで発表した場合は述べる（例：本研究の一部は、第7回日本健康科学・看護学会（東京、2012年1月）で発表した）。最後に、必要があれば、研究のために一定の貢献をしてくれた人達、また論文を校閲した指導教員などへの謝辞を述べる。ただし実際の貢献はしていない先輩の名前を、単に儀礼的に入れることはしない。

(9) 文献 References

- a) 引用した文献のみとし、いわゆる参考文献のリストはつけない。
- b) 当該研究が含まれる領域または投稿予定の専門誌の投稿規定に従って、一貫して記載する。本文内の引用もそれに従うこと。投稿予定雑誌が未定の場合には、ハーバードスタイル（APA方式など）もしくはバンクーバースタイルに従うとよい。

(10) 表 Tables、図 Figures

図表はカラー可とし、適切な位置に配置する。文中に挿入しても、論文の最後に配置してもよい。図表はそれのみを見て、データの意味が明確に伝わるように作成する。したがって適切な図表のタイトルや必要なら註をつける。図の場合にはタイトルおよび註ともに図の下部に、表の場合にはタイトルは表の上部に、註は下部に記載する。表に罫線を引く場合は、原則として横罫線のみとし、縦罫線や枠線は不要である。ただし、投稿を予定する雑誌の投稿規定が示唆している場合にはこの限りではない。図表には、図1、2、3、表1、2、3などと順番をつけ、本文で引用する。図表は不要なものを載せず、できるだけ少なくする。

(11) 付録 Appendix

文献の後に必要に応じて付けてもよい。付ける場合は、付録またはAppendixとゴシック（あるいはボード）で書き、段の中で、センタリングし、次の行から本体を記述する。

5. 使用したオリジナルな評価尺度や質問紙あるいは調査票の実物などについて、論文と別に提出してもよい。論文の作成要領に準じて、論文表題と著者名を付け、付録あるいは付図・付表として作成する。なお、論文審査で参考にすることもある。

以上

